

ウズベキスタン共和国外務副大臣（元駐日大使）へのインタビュー  
ファジロフ・ガニエヴィチ・ガイラト氏

<文化><伝統工芸>

- ① 「青の都」と呼ばれるサマルカンドの魅力的な建造物や文化の特徴について教えてください。また、ウズベキスタンの伝統工芸品の一つである刺繍（スーザニ）についても教えてください。

何世紀にもわたって、ウズベキスタンの都市は、グレートシルクロードの主要な商業および文化の中心地の1つでした。そして、サマルカンドは「偉大なシルクロードの中心」として際立っていました。「東洋の真珠」と「イスラム建築の宝石」は、サマルカンドに太古の時代から授けられた称号です。ローマ、アテネ、バビロンと同時代のサマルカンドは、2750周年を祝いました。サマルカンドの歴史における黄金時代は、ティムール朝の統治時代でした。中央アジアで最も偉大な武将であり統治者であった王朝タメルレーン（1336-1405）の創設者は、この都市を彼の強力な帝国の首都にしました。

今日、サマルカンドの記念建造物は荘厳で素晴らしいものです。この町では、歴史そのものの息吹を感じることができます。それは古代遺跡だけでなく、マドラサ（イスラム教の学校）、霊廟、ミナレット（イスラム寺院の尖塔）でも感じることができます。

レギスタンの伝説的なサマルカンド広場は、中央アジアの主要な建築名所の1つです。3つの壮大なマドラサ（ウルグベクマドラサ、シェルドル、ティリアカリマドラサ）が、誇らしげにこの広場に建っています。

グーリ・エミール廟は、サマルカンドのもう一つの宝石です。遠くから見ると、グーリ・エミール廟のドームは、穏やかに折りたたまれたターコイズの花びらを持った青いチューリップのように見えます。

スーザニは、ウズベキスタンで作られた刺繍と装飾織物の一種です。ペルシア語でスーザニは「針」を意味します。スーザニは通常、絹または綿の糸で刺された綿（時には絹）の生地ベースを持っています。チェーン、サテン、ボタンホールステッチが主に使用されるステッチです。生地に敷かれた飾り糸を別の糸で縫う、縫い取りであるコーチングも多く使われています。

人気のあるデザインモチーフには、太陽と月、花（特にチューリップ、カーネーション、アヤメ）、葉、果物（特にザクロ）、そして時には魚や鳥の絵が含まれます。

スーザニ刺繍の主な種類：ブハラ スーザニ、サマルカンド スーザニ、シャクリサブズ スーザニ、タシケント スーザニなど。

<食>

- ② 杉並区内にはウズベキスタンのパンが買えるお店があるそうです。またウズベキスタン

の代表的な料理に「シャシリク」「プロフ」などがありますが、日常的に家庭で食べられているメニューや代表的な食材を教えてください。

ウズベキスタンの郷土料理はかなり美味しいです。ウズベク料理の豊かな伝統と古代文化には深い歴史があります。幅広い品揃えがあり、それぞれの料理はウズベキスタンの人々のライフスタイルと文化を反映しています。

ウズベキスタンで最も有名な料理はパロフ（プロフまたはオッシュまたは「ピラフ」）で、一般的に米、肉、ニンジン、玉ねぎで作られた主要料理です。それは通常、直火上でカザンプレートを使い調理されます。ひよこ豆、レーズン、メギ、または果物が、バリエーションのために追加される場合があります。多くの場合、世帯主や主婦が家族やゲストのために自宅で準備しますが、プロフは、特別な機会にオシュパズ（Oshpaz）または、オシュ（Osh）と呼ばれる料理長によって作られます。このシェフは、直火で郷土料理を調理し、休日や結婚式で最大1,000人にサービスを提供することもあります。

シャシリクについて話すと、串に刺した肉汁に富んだ肉がすぐに想像されます。伝統的なウズベキスタンのシャシリクは子羊から調理され、また牛肉、家禽<sup>かきん</sup>、鶏肉、魚からも作ることができます。

ラグマンは、一品目と二品目の両方になる料理の一種です。ラグマンは肉、野菜、麺で作られています。ラグマンの麺が主要な特徴の役割を果たします。日本人の中には、シェフが料理に使う商品の類似性から、ラグマンを「ウズベクうどん」と呼ぶ人もいます。

ウズベキスタンのサムサは、さまざまな種類の肉の風味から焼き上げられています。サムサはタンドール（ストーブ）で調理されます。しかし、電気やガスオーブンで調理される種類のサムサもあります。

マンティは、ウズベキスタンの人々のための伝統的な料理です。薄い生地に含まれた一切れの肉です。マンティの主な特徴は、料理が蒸されることです。マンティは手で食べられます。料理はしばしばサワーミルクまたはフライドオニオンと一緒に出されます。

## <交流>

### ③ ウズベキスタンの皆さんから見た日本の文化の魅力はどこにあるのでしょうか？

一地理的な距離があるにもかかわらず、日本は文化、精神の面でウズベキスタンに非常に近いです。ウズベキスタンと日本の関係の歴史は、当時の我が国の人々がグレートシルクロード内の壮大な交流に参加した古代にまでさかのぼります。

第二次世界大戦後、ウズベキスタンには約25,000人の強制収容された日本人がおり、彼らは、アンディジャン、ブハラ、タシケント、フェルガナ地域の多くの産業企業、農業施設、住宅の建設の工事やタシケントのアリッシュャー・ナヴォイにちなんで名付けら

れた州立アカデミックポリショイ劇場の建設に参加しました。

ウズベキスタンにとって困難な時期でしたが、日本人はウズベキスタンの人々の理解、思いやり、そして気高さを感じました。イスラム教徒の墓地に埋葬された日本人の墓は、今日までよく保存されています。

2001年、タシケントの中心部の10ヘクタールの面積に日本庭園が作られました。その庭園に、日本人の思い出とわが国民との友情と相互理解の象徴として、桜の苗木が植えられました。

日本人の勤勉さと献身の視覚的な証明の1つは、最愛のウズベキスタンのテレビシリーズ「おしん」のヒロインの人生です。このシリーズはウズベキスタンの人々の心に深く触れ、日本人への敬意をさらに強めました。

私たちの国では、日本の歴史と文化の研究への関心が高まっています。日本語は大学、学校、ライシーアム（中等学校）で勉強されています。

創価大学東京でのウズベクの偉大な詩人で思想家のアリッシャー・ナヴォイの記念碑の建設、日本庭園の造園、タシケントの平山郁夫にちなんで名付けられた「文化のキャラバンセライ」など、わが国民との文化的対話のいくつかの明るい例があります。

ウズベク人と日本人は、精神面の近さ、人々の伝統と習慣、高齢者への特別な敬意、土地への愛情、勤勉さ、そして困難に直面したときの回復力、誠実さ、おもてなしによって結ばれています。

#### ④ 杉並区民に伝えたいウズベキスタンの魅力は何ですか？

ウズベキスタンの土地は古代のグレートシルクロードの重要な中心地の1つであり、ヨーロッパ、アジア、中東の文明間の経済的、文化的、宗教的交流において主要な役割を果たしたことはよく知られています。

ウズベキスタンにはいくつかの古代仏教寺院があり、日本人にとって非常に魅力的であることがわかっています。いくつかの記念碑や考古学的発見は、仏教がグレートシルクロードを経由してウズベキスタンの領土を通過して日本にやってきたことを証明しています。このつながりは、アーティストの平山郁夫、作家の井上靖、考古学者の加藤九禱などの有名な日本人によって新たにになりました。中央アジアとグレートシルクロードの歴史と文化の研究への彼らの貢献は、当然の重要性と評価を受けています。

ウズベキスタンには、次のような他の古代の有名な都市があります。

**ブハラ：**シルクロードの有名な交易所であるブハラは、多くの旅行者のロマンチックな気分をかき立てます。コンパクトな場所に140以上の古代建築の記念碑があります。

**ヒヴァ：**「野外の博物館」であるヒヴァは、グレートシルクロード沿いにある唯一の町で、何世紀にもわたって手付かずの状態に残っており、中世の町のエキゾチックな味わいがあります。今日、古代ヒヴァの中核であるイチャンカラは、18世紀後半から19世

紀前半の建築の最も素晴らしい例を示しています。

アムダリヤ川の右岸にあり、シルクロードのキャラバンルートの交差点にある最南端の都市テルメスには、2500年以上の歴史があります。私たちの時代の初めに、テルメスは中央アジアの仏教の中心になりました。それは仏教徒が中国と日本に広まった出発点でした。テルメス周辺には、カラテペの岩窟僧院、ファヤズテペ仏教寺院、高さ16メートルのズルマラタワー（大きなレンガ造りの仏教の仏舎利塔）があり、観光客や仏教の巡礼者に非常に人気があります。

「百回聞くより一度見る方がいい」というウズベク語のことわざがあります。これは、「百聞は一見に如かず」という日本語の言い回しによく似ています。ですから、ウズベキスタンの人々の文化や考え方が日本人と似ていることを自分で目撃できるウズベキスタンをぜひ訪れてみてください。

**杉並区はウズベキスタンのホストタウンとして、今後も継続して交流をしていく予定ですが、どのような分野での連携・交流をお考えですか？（教育など）**

一現在、ウズベキスタンと日本の間の相互に有益な協力は、新しい、質的に高いレベルに達しつつあります。これは、2019年12月のウズベキスタン共和国大統領のシャフカット・ミルジヨーエフ閣下の日本への最初の公式訪問中に達した交渉と合意によって促進されました。

私たちの協力は、政治的対話、貿易と経済、投資、文化および人道的関係を含む幅広い分野をカバーしています。

2つの国は、オリンピックとパラリンピックを迎えるにあたって文化とスポーツの交流を大幅に発展させています。杉並区の文化やスポーツ分野での協力がオリンピックにとどまらず、他の分野でも実り多い相互に有益な関係が続くことを願っています。これは、双方の国の人々の友情と相互理解の絆を強めるのに役立つと信じています。

**観光**は協力の優先分野の1つです。2018年に約1万1千人の日本人がウズベキスタンを訪れた場合、この数は2019年末には2万5千人以上に増加しました。パンデミック（新型コロナウイルス感染症）後、この数は増え続けると確信しています。ウズベキスタンには巨大な歴史および文化的遺産があるため、7000以上の独特な建築および考古学的記念碑があり、そのうちのいくつかはユネスコの世界遺産リストに含まれています。ウズベキスタン国民は、特別な共感とおもてなしで、我が国で日本人を温かく歓迎します。ご存知のように、ウズベキスタンは日本人のためのビザ免除制度を確立しました。

協力のもう一つの非常に重要な分野は**貿易と経済**です。今日、ウズベキスタンでの経済活動の発展に対する日本のビジネス界の関心が高まっていることを嬉しく思います。ウズベキスタンには、日本資本100%の8社を含む22社の合弁会社が設立されました。

また、ウズベキスタンでは日本企業の代表 15 名が認定されました。2019 年の二国間貿易は 4 億 1360 万ドルに達しました。近年、ウズベキスタンは日本から 41 億ドル以上の財政的および技術的支援を受けました。ウズベキスタンでは、JOGMEC、三菱、伊藤忠、住友、丸紅、いすゞなど数十の組織が活動しています。

2019 年のウズベク・ジャパンサミットでは、双方がエネルギー、産業および農業の近代化、インフラ、エコロジー、ヘルスケア、その他の産業の分野で 65 億ドルのビジネス契約の堅実なパッケージを締結しました。

今日、教育セクターはウズベキスタンと日本の協力の優先事項の 1 つです。日本政府は、ウズベキスタンの若者が日本の大学で学ぶための奨学金と助成金を提供しています。私たちはそれを高く評価し、ウズベキスタン経済のための有資格者を訓練するプロセスへの日本政府の貴重な貢献として受け止めています。

ですから、杉並区との交流を上記のすべての協力分野に広げていきたいと思えます。

#### <オリパラ関連>

- ⑤ 区では東京 2020 オリンピックの事前キャンプにて、ウズベキスタンのボクシングチームを受け入れる予定です。ウズベキスタンの人々が楽しむスポーツ事情について教えてください。

東京 2020 オリンピックに向けて一言お願いします。

ー今日、ウズベキスタンはスポーツの国です。ウズベキスタンでは、身体鍛錬とスポーツの促進、国民の健康的なライフスタイルの促進、身体障害者の身体的リハビリテーションに必要な条件の作成、および国際的なスポーツシーンで国の価値あるパフォーマンスを提供すること等の継続的な措置が近年行われています。

2016 年にブラジルで開催されたオリンピックでのアスリートの結果は、世界で最も有望なスポーツ国の 1 つとしてのウズベキスタンの可能性を示しました。

ウズベキスタンのアスリートはリオデジャネイロで合計 13 個のメダル（金 4 個、銀 2 個、銅 7 個）を獲得しました。これは、オリンピック史上最も成功した結果を示しています。ウズベク人が獲得したこれらのメダルのうち 7 つは、3 つの金メダルを含むボクシングからのものでした。

伝統的にウズベキスタンは乗馬とレスラーを育てています。「クラッシュ」と呼ばれる私たちのレスリングは、中央アジアで何世紀にもわたって実践されてきた多くのフオークレスリングスタイルを指します。レスラーは大きな円の中で競い合い、相手のベルトを持って足からお互いを投げ出そうとします。

ウズベキスタンでは多くのスポーツが行われており、最も人気のあるスポーツはボクシング、サッカー、体操、テニス、レスリング、クラッシュ、柔道、サイクリングです。

2021年の夏、東京オリンピックの開幕と、ウズベキスタンからの大勢のアスリート、公式代表、ファンの到着を待っています。

日本人の友人たちに、コロナウイルスに対する人類の勝利を示す今年の東京オリンピックの開催が成功することを、心からお祈り申し上げます。